

## 妊娠中の梅毒感染症に関する実態調査結果の報告

公益社団法人日本産婦人科医会  
会 長 木下 勝之  
常務理事 関沢 明彦

2016年6～7月に会員のみなさまにご協力いただいて実施した妊娠中の梅毒感染に関する実態調査の結果を報告いたします。

これらの貴重なデータは、「性の健康医学財団」と協力し、梅毒母子感染予防に役立てていく所存です。会員のみなさまの本調査へのご協力に深く感謝いたします。

(妊娠中の梅毒感染の実態調査結果の概要)

全国2,458の分娩取扱い施設に、2015年10月1日～2016年3月31日までの間に分娩となった妊婦の梅毒感染率および周産期予後についてアンケート調査を依頼し、1,919施設(78.1%)から有効回答があった。

妊娠中の梅毒感染率は4,022人に1人で、若年者ほど感染率が高かった(表1)。また、表2に示すように、妊娠中の感染(妊娠初期検査で陰性)が5%、未受診や飛び込み分娩等で感染時期が不明であったものが16%あった。

梅毒感染妊娠の周産期予後は、表3に示すように、周産期死亡率および児の先天奇形発生率が高かった。

以上より、若年者の性教育の重要性、早期からの妊婦健康診査受診、および妊娠中の性感染症予防に関する啓発の必要性が推定された。

表 1. 日本で分娩した妊婦における梅毒感染率

	全体数	梅毒感染者数	感染率
妊婦の年齢層 (歳)			
≤ 19	4,295	8	1/537
20-29	105,328	43	1/2,449
30-39	177,991	22	1/8,091
≥ 40	18,038	3	1/6,012
全体数	305,652	76	1/4,022

表 2. 日本で分娩した梅毒感染妊婦の梅毒と診断された時期

	全体数	妊娠初期	妊娠中期または末期		不明
			妊娠初期の梅毒検査結果		
			陰性	初期は未実施	
妊婦の年齢層 (歳)					
≤ 19	8	6 (75%)	0 (0%)	1 (13%)	1 (13%)
20-29	43	33 (77%)	2 (5%)	8 (18%)	0 (0%)
30-39	22	18 (82%)	2 (9%)	2 (9%)	0 (0%)
≥ 40	3	2 (67%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)
全体数	76	59 (78%)	4 (5%)	12 (16%)	1 (1%)

表 3. 日本で分娩した梅毒感染妊婦の周産期予後

	全体数	早産	周産期死亡	先天奇形
妊婦の年齢層 (歳)				
≤ 19	8	1 (13%)	0 (0%)	1 (13%)
20-29	43	4 (9%)	2 (5%)	6 (14%)
30-39	22	1 (5%)	1 (5%)	3 (14%)
≥ 40	3	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)
妊婦の年齢層 (歳)	76	6 (8%)	3 (4%)	11 (14%)